慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	奥付
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学理工学部
Publication year	2015
Jtitle	新版 窮理図解 No.19 (2015. 7)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000019-0011

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

PM2.5 問題の実態

～一次情報を参照することの重要さ～

奥田 知明

わが国では 2009 年に PM2.5 の環境基準が定められ、また 2013 年には中国において深刻な PM2.5 の高濃度現象が大々的に報じられるなど、PM2.5 は一種の社会問題になりました。私は 10 年以上前から研究者として PM2.5 に関わってきましたが、まさか自分の研究対象が「流行語」になるとは夢にも思いませんでした（第 30 回 2013 ユーキャン新語・流行語大賞「トップテン」）。

しかし、各種メディアによる PM2.5 関連の報道には、違和感を覚えることも数多くあります。私の知る限り、PM2.5 の現状は次の通りです。① 日本の平均的な PM2.5 濃度は、特に近年上昇傾向にあるわけではありません。② 2013 年 1 月には、確かに中国の PM2.5 濃度は例年よりも高かったのですが、同時期に日本の PM2.5 濃度は上昇していません。③屋外の PM2.5 濃度が極端に高い場合を除き、屋外と室内の PM2.5 濃度にほとんど違いはありません。④ PM2.5 対策としてマスクを着用しても、多くの場合は気休め程度にしかなりません。一般的には、マスクと顔面を完全に密着させて着用することが困難だからです。……いかがでしょうか？　各種メディアの報道から受ける印象とは、かなり異なっていたのではないでしょうか。特に 2013 ～ 14 年にかけては PM2.5 に関する講演を何回もお引き受けしたのですが、このような話をすると皆さん一様に驚かれていました。

実は、上記の根拠となるデータは全て、信頼性の高い公的機関により公開されています。すなわち、誰でも一次情報を参照することができるのです。一方、各種メディアの報道は、残念ながら一次情報を正しく伝えているとは言えないケースを多く見かけます。「なぜこの一次データから、そういう解釈になるんだ！」と感じる機会も一度や二度ではありません。

PM2.5 問題に限りませんが、気になるニュースを目にした時に、可能な限り一次情報を参照して、自分なりにデータを解釈することができる能力は非常に重要です。情報が氾濫（はんらん）している現代において、この能力を鍛えることは必須だと私は考えています。そこで、私の授業では、環境問題をテーマにしたディスカッションを通じて、信頼できる一次情報に基づいた自分の意見を持つことを目標にしています。

理 工 学 Information

KEIO TECHNO-MALL 2015
第 16 回 慶應科学技術展
「育てる産学、育つ夢」

KEIO TECHNO-MALL（慶應科学技術展）は、慶應義塾大学理工学部・理工学研究科の研究成果を広く発信し、共同研究や技術移転など、産学官連携のきっかけとなる出会いの場を提供するイベントです。

出展ブースでは、教員や学生が実機のデモやポスター展示を通じて、来場者に研究成果のプレゼンテーションを行っています。毎年、企業や官公庁、他大学などから、多数の方々のご来場をいただいています。



©慶應義塾大学



日時：2015 年 12 月 4 日 (金) 10:00 ～ 18:00
場所：東京国際フォーラム地下 2 階（展示ホール 2）

メインイベント
「脳・心と幸せ」　システムデザイン・マネジメント研究科　前野 隆司　教授　他

ラウンドテーブルセッション
「環境への工学的アプローチ」　機械工学科　植田 利久　教授（ファシリテータ）
「知能ロボットと人の未来」　管理工学科　山口 高平　教授（ファシリテータ）

編集後記

奥田先生は PM2.5 の問題に真摯（しんし）に取り組まれています。その姿勢が取材中にもよく現れていました。特に、みなさんに PM2.5 についての正しい知識を知ってほしいという気持ちが随所に見受けられました。みなさん、このページのコラムもぜひ読んでください。PM2.5 のイメージが変わるかもしれません。

表紙の写真は、先生自作の屋外にある捕集装置と奥田先生のコラボレーションを試みたものです。デザインができるまでは、どのような仕上がりになるのか、想像できませんでしたが、青空のような背景も見事に再現され、奥田先生の研究がイメージできる仕上がりとなりました。（松林真奈美）

新版 窮理図解

No.19　2015　July

編集　新版窮理図解編集委員会
写真　邑口京一郎
デザイン　八十島博明、石川幸彦（GRID）
編集協力　サイテック・コミュニケーションズ
発行者　青山藤詞郎
発行　慶應義塾大学理工学部
〒 223-8522 横浜市港北区日吉 3-14-1
問い合わせ先（新版窮理図解全般）
kyurizukai@info.keio.ac.jp
問い合わせ先（産学連携）
kll-liaison@adst.keio.ac.jp
web 版　http://www.st.keio.ac.jp/kyurizukai
facebook　http://www.facebook.com/keiokyuri